

平成30年度 第5回堺市北区区民評議会 議事録

開催日時	平成30年11月15日(木) 午後3時30分～5時30分
開催場所	北区役所3階 302会議室
出席委員	天野委員・伊藤委員・大江委員・奥田委員・加我委員・加藤委員・小松委員 竹川委員・椿委員・野田委員(五十音順)
出席議員	池尻議員・池田議員・石本議員・岡井議員・芝田議員(五十音順)
事務局職員	吉田区長・田所副区長・堀井企画総務課長・六波羅課長補佐・中岡企画係長 阪口主査・辻村
出席職員	石井保健福祉総合センター所長・右川自治推進課長・谷村地域福祉課長 左近北保健センター所次長・金本子育て支援課長 西尾堺市社会福祉協議会北区事務所長
会 議	公開会議
傍 聴	傍聴者数5人
案 件	1. 開 会 2. 北区選出の堺市議会議員との意見交換会 3. 多世代交流・協生のまちづくりについて 4. 閉 会
資 料	・会議次第 ・北区区民評議会(意見交換会) 配席図 ・北区区民評議会配席図 ・「多世代交流・協生のまちづくりについて」答申書(案)

議事の経過	
発言者	発言内容
加我会長	<p>1 開会</p> <p>皆さん、こんにちは。大阪府立大学の加我でございます。今年度5回目の区民評議会でございます。本日の会議では、まず1つ目の議題として、北区選出の堺市議会議員の皆様との意見交換会を行います。その後、若干のレイアウト変更をさせていただき、2つ目の議題として、答申書の確定に向けた議論を行っていきたいと思います。本日も活発な議論の方、どうぞよろしく願いいたします。</p>
加我会長	<p>2 北区選出の堺市議会議員との意見交換会</p> <p>それでは議題に入っていきます。</p> <p>まず1つ目の議題ですが、市議会議員の皆様との意見交換会です。おおむね1時間の予定となっておりますので、4時半くらいまでを目途に意見交換会をさせていただきたいと思います。市議会議員の皆様とは8月にも意見交換をさせていただいております。その後、資料にあります答申書（案）がまとまってきています。今年度は取りまとめの年度になっておりますので、早い段階で御意見をいただきたいということで本日、お集まりいただきました。今までの議論については、会議資料等を事前にお配りしておりますので、それらも踏まえながら御意見をいただきたいと思います。常日頃から区民ニーズを把握されている議員の皆様から御意見を頂戴し、意見交換を行うことで、より一層区民の声を評議会の審議に反映させることができると考えています。</p> <p>では、お手元の資料1をご覧ください。本日の意見交換会ではこの答申書（案）について、御意見をいただきたいと思いますので、改めて事務局から御説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは答申書（案）につきまして、全体の構成を含めまして改めまして御説明をさせていただきます。お手元資料1を御用意ください。これまで北区区民評議会において、御議論いただきました内容を答申書（案）として整理したものとなっております。表紙をめくっていただきますと裏面に目次がございますが、6つの項目での構成となっております。まず1ページ目ですが「Ⅰ. 答申に当たって」といたしまして、区民評議会の設置目的、昨年に諮問を受けて以降、これまでの2年間における北区区民評議会での会議の開催経過等の概要を記載しております。</p> <p>同じく1ページ目の中ほどからは「Ⅱ. 諮問事項」といたしまして、今回の諮問の内容について改めて記載をさせていただいております。</p> <p>続いて、2ページ目をご覧ください。「Ⅲ. 審議の経過」といたしまして、昨年度と今年度の区民評議会における審議の状況について記載をしており、ページ中ほどからは、委員提案により北区において実施いたしましたアンケート調査の概要を記載させていただいております。</p>

続いて3ページ目からは「IV. 多世代交流・協生のまちづくりについての現状と課題」として整理をしております。まず、取組の現状といたしまして、北区において行われている多世代交流に資する多彩な活動について内容を整理しております。1ページめくっていただきまして、4ページからはアンケート調査結果から明らかになりました特徴的な取組についての概要を記載しております。

次に、6ページをご覧ください。ここからは現状に対する主な課題というものを記載しております。こちらにつきましても委員の皆様からの御意見に加えまして、アンケート調査における活動に係る課題に関する設問の結果についても抜粋して記載をしております。

次の7ページからは「V. 審議の方向性及び取組例」といたしまして、昨年度に御提出いただきました中間報告において整理した審議の3つの方向性ごとに委員の皆様から御提案いただいた内容について10ページまで整理をしております。

今年度の第2回会議以降、より重点的に御議論いただいております取組例を「(1) 委員提案の取組例のうち、より効果的であると考えられるもの」といたしまして、その他に御提案いただいた内容については「(2) その他、委員から提案のあった取組例」として整理をし、それぞれの方向性ごとに掲載をしております。

少しページが飛びますが、最後11ページをご覧ください。こちらでは「VI. 答申の結び」といたしまして、審議を進める中で、区民同士が支えあうことの重要性を改めて認識したことや、自治会を中心とした地域コミュニティの充実、活動の担い手の発掘・育成の重要性などを記載しており、この答申を踏まえて、可能な取組についての施策化、事業実施を期待することを記載し、答申の結びとしております。

12ページ以降は、参考資料といたしまして、委員皆様の名簿や会議の開催状況について掲載をさせていただいております。

答申書(案)についての説明は以上となります。

加我会長

はい、ありがとうございます。皆さんにも事前に見ていただいているということで、項目を中心に御説明をいただきました。これを踏まえまして、皆様から主にこの答申書についての御意見、または次年度以降の取組につながっていくような御意見をいただければと思っております。どなたからでも構いません。いかがでしょうか。

岡井議員

こんにちは。お疲れさまです。岡井です。

新たに何かを付け足すというものはありませんが、これまでの取組の中で、また今後の課題として、多世代交流をしっかりと進めていくことが必要だということを中心にうたわれていると思います。そこで私自身も思いますことは、色々なイベントに取り組む際に、子どもを企画段階から参加させていくことです。子どもと一緒に考え、一緒に作っていくという取組を進めていくことは、非常に次代を担う世代を育てていく上からにおいて、重要なことだと思っております。前にも少し紹介したかもわかりませんが、うちのマンションでは毎年秋に、20年くらいも続いている、ふれあい祭りというお祭りをやらせていただいております。自治会が主催ですが、

自治会の役員以外に実行委員会をつくって、当日色々な模擬店やゲームコーナー、子ども達も参加できるような抽せん会などをしています。ここで心がけていることは、いかにスタッフを増やすかということです。毎年毎年、スタッフが増えてきており、今年のお祭りでは37人のスタッフで取り組みました。あまり大きなマンションではなく90世帯、実質今住んでいるのは87世帯ですから、半分の世帯がスタッフになります。スタッフを増やすということは、それだけみんなと一緒につくるといことになり、また同時にそれだけでも参加が増えるということになります。スタッフを増やすことが一緒に楽しみにつくっていくことにつながると取り組んできましたが、やはり、そういう中でも中学生、高校生の参加は少ないです。子育て世代の保護者や子育てが終わった世代の方たちがスタッフになることは多いですが、子どもは中学生、高校生になるとほとんど来てくれません。クラブ活動や色々な付き合いなどで忙しいと思いますが、子ども達自身が楽しくなるような取組であれば、当然来てくれるだろうし、そこに自分が関わり、一緒に作り上げていくという意識を持てれば、もっと参加が増えるのではないかと思います。来年以降は、意識的に中学生、高校生にもスタッフとして参加してもらい、意見もたくさん言ってもらって、一緒に作り上げていくというようなお祭りにしていけたらいいと感じているところです。

また、話が変わりますが、明後日17日の土曜日に、市議会として初めて高校生を対象とした市政報告会を行う予定です。議会事務局等から高校に色々申し入れをしてもらって、50人くらいが集まりそうです。こういった取組を通じて、政治にも、市政にも関心を持っていただける若い世代を増やしていくべきです。18歳選挙権となりましたので、主権者教育ともあわせて市議会がこのような取組をすることが重要であると感じているところです。ここに来ている議員の皆さんとも一緒になって、しっかり進めていきたいと思っております。

加我会長

はい、ありがとうございます。この評議会でも子どもたちと一緒に企画をしたらいいという御意見がございました。中高生が一番活発なアクティビティの高い世代ですので、その子達を呼び込むことは非常に難しいと思います。しかし、その子達が元気で楽しくなるようなお祭りにしていただき、また、来年にでも成果をお話いただければと思います。

池尻議員

私も陵南中学校区で健全育成にずっと関わってきました。この答申書案にも書かれておりますが、会員が高齢化、固定化しているという問題について、私も中学校のPTA、健全育成、百舌鳥地域の「もず野の会」と順番に関わってきて、役員になる方が固定化していると感じています。地域で何かに関わる場合、一番最初がPTAです。そして、PTAに関わったらずっと色々な役を当たっていくというのが現状です。この現状について、何かを考えていかなければいけないとつくづく考えております。

それから、百舌鳥、中百舌鳥、西百舌鳥の3校区では、百舌鳥八幡宮の大きな祭りがあります。私達の時代は祭り中心で1年がまわっていましたが、今は祭りに興

	<p>味のない子どもが増えてきており、地元の子どもが参加せず、他所から来た子どもが好きで祭りに参加しているという状況にもなってきています。やはり昔のよいところをもう一度拾い出すようなことも考えていかなければならないと思っています。</p> <p>そして、地域では防災活動、防災訓練などをしていますが、参加される方は固定されています。やはり子どもの参加が難しく、なかなか増えない状況です。こういった問題に真剣に向き合って、もっと地域の交流を広げていかないといけないと考えております。</p>
加我会長	はい、ありがとうございます。
石本議員	<p>石本と申します。よろしく申し上げます。今お二方から御発言がありました。私もこの多世代交流は本当に大事な取組だと思っています。特に、区内で取り組まれているイベントなどに関わる子ども達や大人たちの様子を見ていて、何となく広がりのようなものを感じています。とりわけ、11月3日に開催された北区交流まつりは、お天気がよかったこともあって、最多の人数が来場されたと聞いております。私も半日だけ参加させていただきましたが、実感としてもたくさんの人が参加されていると感じました。これはひょっとしたら、この評議会の活動の成果かもしれないですね。そのように考えていましたが、実は今日、私が購読しております「日本教育新聞」という新聞の中で、白梅学園大学が東京都小平市で行ったヤングケアラー調査についての記事を見ました。皆さん、「ヤングケアラー」という言葉を御存じですか。このような時代ですが、家事や家族の世話を介護も含めて、小学生や中学生が担っているという現状があるそうなのです。この調査は、小学生、中学生を対象にしたものです。そういう現状が実際に、子ども達に遅刻が多いとか、忘れ物が多いとか、あるいは学力が振るわない等の影響が出てきているというのがこの調査の結果です。それを考えますと、イベントを通じてたくさんの人にお集まりいただくということ、このことがまず第一歩と思いますが、ここから先は地域の皆さんの生活実態、とりわけ、子ども達の実態まで踏み込んでいくことが大事だと思います。なかなか家族の中にまで立ち入ることは難しいと思います。イベント等に参加するというのも大事なことで、そこから広げていくことも大事なことです。もう一歩踏み込んで地域の子ども達や高齢者がどのようなことでお困りかというところに手が届けばいいと感じました。</p>
加我会長	はい、ありがとうございます。前半は意見交換会ですので、聞いているだけでなく、委員の方からも御意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。
奥田委員	先ほどから中学生の参加が問題だという御意見がありました。私は地元で流しそうめんをするなど子どものために色々な行事をしており、その中で子どもの居場所づくりという取組を去年からやっております。この子どもの居場所づくりを通じて、その子ども達が育って行って、戻ってきてもらいたいです。

また、中学校にイベントへの参加を促しに行きますが、やはり行事とクラブ活動があつて、なかなかスムーズにはいきません。ですから、中学生を呼び込もうとすると、やはり学校の協力が必要だと思います。

先ほどからイベントの話がありますが、自分は子どもとは日常性の中で関わっていかないといけないと思っています。子どもの居場所づくりは毎月1回しかできていないのですが、帰り際、子どもに来週もするのかと聞かれたりしますと、日常性の中に多世代交流の場があることがいいと感じます。イベントも大事ですが、子どもの日常が大事だと思います。その中で、いわゆる高齢者が子どもを見ればいいのではないかという意見が時々出てきます。働き方改革で70歳まで働きなさいということがありますが、実際に70歳まで働いて地元に戻るというわけではなく、徐々に徐々に地域に戻ってくると思います。その辺の仕組みづくり、仕掛けづくりが必要で、高齢者が子どもに日常的に関わっていけるような、例えば、老人会の構成の考え方を変えるなども一つの案ではないかと思っています。

加我会長

はい、ありがとうございます。他に委員からございますか。

小松委員

色々な議論をされていて、もう答申をまとめていく段階になっていますが、前回からずっと悩ましいと思っていることがあります。北区では色々と活発な活動があつて、豊かな市民の取組もあり、行政も結構頑張っていると話し合っていますが、この答申書案の課題のところがずっしり重く感じています。6ページの主な課題ですが、表現をもう少し変えてほしいと思っています。北区交流まつりがものすごく盛り上がり素晴らしかったですが、普段の活動の担い手はやはり高齢化しているし、減少しています。それはその活動の情報発信が下手で、うまく若い世代とつながらないから、何とか工夫しないといけないということですが、それだけではないのではないかと思います。それをどこかに書き込めないかと思っています。私は、現役世代が子育てなどで忙しく、仲間をつくって一緒に活動していくようになりにくいのは、先ほど御意見のあつた「働き方」という言葉に原因があるのではないかと思います。今、現役世代は、大変な働き方をしていますよね。ダブルワークや、子どもにケアをさせながら、親が一所懸命働いているという家庭があつて、世の中が本当におかしいと感じています。就職して、真面目に働いていたら何とかなるといふ時代ではなくなってしまうと、自己責任と言われていたりしています。法律を改悪して、安定した雇用を破壊し、正規の労働者を切り捨ててきた社会の中で、親たちが追い詰められて、祖父母が子どもや孫とかの面倒を見ながらやっているという状況では、もう社会的なことに関心を持ったり市民活動したりする余裕がない方も多々いると思います。我が子のことさえできない状態です。北区でどれだけのことができるかは別として、世の中全体の苦しみを抜きに考えてはいけないのではないかと思います。私が特に切実だと思っていることは、学校が、教職員が大変な状況にあることです。小学校で英語を教えなければならないなど、どんどん難しい内容が入ってきています。今、3年生の子どもがローマ字を習っています。2年ほど前に4年生が習っていたことを3年生が習っていたりします。また、1年生が月曜日に6時

間授業をしていたりもします。私が1年生の担任の時は、月曜日の昼までで子どもが帰ってくれたら「はあ、よかった」というような仕事ぶりでした。今の教員がそんなにすごい人になっているとも思わないので、みんなふらふらになりながら、必死で頑張っていると思います。そうすると、例えば3年生で地域学習をしなければいけないと分かっているのに、するけれども、自分が地域に出かけて行くこともできずに、副読本や出前授業に頼って、それが終わったらもうおしまいという状況になってしまいます。少し地域を歩こうとか、地域の人と一緒に探求するという余裕がない教員がほとんどです。ですから、そういう現実の中で一人一人が世の中をよくするために頑張ることはもちろんですが、この区民評議会や行政などがそういう現場や若い人たちを励ますような取組を考えないといけないのではないかと思います。この答申書の9ページに「日ごろの活動や交流会、ニュース発行のような活動をするためには「場」が必要。地域会館や公的施設をもっと有効に活用できれば、多世代交流をはじめとした活動を活性化させることができる。」という記載がありますが、その公的施設が余りにも少ないと思います。また、その下に「社会教育主事のいる公民館を設置すれば、多世代をつなぐ住民活動がより活発化し、また、歴史文化の展示場所があれば、多世代がともに地域の歴史や文化を学ぶ場となる。」と記載があります。この区民評議会や区だけではできないことだと思いますので、議員の皆様にも頑張ってくださいたいし、私達も色々なところで声を出していきたいと思っています。

加我会長

ありがとうございます。他に御意見はございませんでしょうか。

芝田議員

公明党の芝田です。8月の意見交換会は公務で参加できず申し訳ありませんでした。11ページの「VI. 答申の結び」で、「多世代交流・協生のまちづくりには、即効性のある取組はなく、地道な取組を積み重ねることによって実現していくものであり、その取組には、地域の住民や団体が中心になって進めていくものが多いことから」とまとめていただいています。まさに、あらゆる取組をしていく中でいろいろな選択をしていきながら、実施することが求められているのだと思います。御存知のように人口構造も高齢社会となり、逆ピラミッド型ということで、若い子どもが少なくなっており、堺市も人口が減ってく中でどのように人口誘導して人口減少を食い止めていくのか、というのが今の施策の中心になっています。人生100年と言われており、平均寿命もまだまだ延びていきますので、この場にいらっしゃる皆さんや地域にいらっしゃるシニア世代の方のような元気な方が、経験と知恵を出し合いながら、少ない子どもをどのように支え、交流に引き込んでいくかということが必要かと思えます。いろいろな取組例がある中でダンスの話も出ておりました、私は登美丘高校出身ですが、先日の矯正展の際も登美丘高校のダンス部のパフォーマンスのときは大勢の人がいたそうです。もちろん北区にある高校ではないですが、ただ堺はその熱があるので、そういった意味でもいろいろな取組みをしていただきたいなというふうに思っております。小松委員が言われましたように、多世代交流を進めていくには、「場」をしっかり押さえて設定していくことが大事かと思

<p>加我会長</p>	<p>います。各区にあります老人福祉センターの耐震化など、老人福祉センターのあり方についての検討会を進めている中で、まだ案ではありますが多世代交流も視野に入れながら検討するような話もあります。まだ決定ではありませんが、そういった既に北区にある箱物もしっかり活用するような動きもありますので、私もしっかり意見を述べていきたいと思えます。以上でございます。</p>
<p>池田議員</p>	<p>はい、ありがとうございます。池田議員いかがでしょうか。</p> <p>では、御指名いただきましたので失礼します。これまで活発な御議論をされているのは議事録でもよくわかりますので、この答申書に対して私から何かあえて強く言うようなことはないですけど、ただ率直な感想としたら今ダンスの話もありましたけど、私はスポーツが好きなのでスポーツの部分が何か少ないなというのが率直な感想です。若者の話もありましたけど、ダンスはもちろん、これまで何回か御紹介させていただいておりますが、私が家を構えております、竹川委員もお住まいの五箇荘校区は結構スポーツが盛んで、老若男女、特に若い世代、高齢者よりも特に私どもの世代、あるいはそのお子さんとかがよく参加されており、半ば総合型地域スポーツクラブ的な感じであります。総合型地域スポーツクラブというのは結構ドイツとかヨーロッパではすごく、地域交流の要になっていまして、それが発展したのがサッカークラブにもなっています。五箇荘校区なんかはそういう部分ではそこをある意味プラットフォームの核となっていて、ふれあい喫茶にもそこから毎回人が出ています。前回会議の際、そのプラットフォームの形としては、公園ということも一つ提示をしましたけれど、やはり今、場づくりというのはプラットフォームだと思います。実際のプレイスじゃなくても、それがSNSのコミュニケーションでもいいですし、交流を持てるような何か、その一つの核となるのは、私はスポーツが特に若者には良いのではないかと考えています。そして、アンケート結果を見ますと、NPO法人は「会員が高齢化、固定化してきている」というところに関してはそんなに高い比率ではなく、これは想像が付きまます。ただ、NPO法人は、そもそもの活動財源が限られているということで、活動も四苦八苦されていると思えますが、私どもの世代や30代、もうちょっと若い世代の方もおられると思えますので、いろいろな形でこれまでやられている運営についても、NPO法人をより活用することも良いのではないかなという、率直な感想を加えての意見です。以上です。</p>
<p>加我会長</p>	<p>ありがとうございます。委員の皆さんから何か感じていることはございますか。</p> <p>若い世代をどのようにして交流に引き込むかというのは本当に課題だと思いますし、私も苦勞しています。たとえばスポーツを通じてなど、若い世代を引き込むことができる能力を持ったキーパーソンがいれば上手いきやすいですが、私なんかはこの年になりますとなかなかできないです。ところで先ほど岡井議員がおっしゃったマンションでの取組ですが、50世帯ぐらいでしたか。</p>

岡井議員	80、87世帯。
大江委員	<p>80世帯でそういうふれあい活動をなさるとするのは、非常に珍しいと思います。私は最低でも2、300世帯はないと、住民の集まる場所や活動資金などの関係でコミュニティでの活動というのは難しいだろうと思っていました。答申書ですが、3ページの取組の現状の(1)が区レベルの取組です。そして(2)が校区レベルの取組です。そして、記載が足りていないのが町会、自治会のレベルの取組で、岡井議員がおっしゃられたのはこのレベルでの取組です。町会、自治会でも同じように、夏祭り、スポーツ大会、文化祭、あるいは餅つきといった多世代交流をされています。例えば金岡校区の運動会は1年置きに実施しており、その間の1年には、金田11丁としての運動会を実施しています。これは住民同士の親睦を深める非常にいい手段です。これを校区レベルで実施することも良いことですが、やはり町単位でやることで効果があります。我々は大泉緑地にある野外炉で、例年秋に焼肉をやりながら合間に小運動会としてスポーツをしています。どんな内容かといいますと、例えばグラウンドゴルフのホールインワンは子どもも大人も一緒にできるので、非常に盛り上がります。綱引きなどもやりますが、そういったことを町会、自治会という小さい単位でやることにこそ、非常に効果があるのではないかと思います。そういう意味ではこの3ページは記載が抜けていると思います。</p>
天野副会長	<p>今、各先生がおっしゃいましたが、確かに中学生以上になってくると、子どもが行事に参加しなくなっている状況が当たり前になっています。なぜこのような状況かと言うと、1つはこども会という組織が小学校を単位としています。そうすると、父兄の方は子どもが小学校を卒業すると、「もう辞めます。もう関係ない。」という認識が非常に強いです。したがって、中学校に進学するとほとんどの方がこども会を辞められます。私の校区の現状を見ても、こども会のメンバーのうち中学生は本当に微々たる数字です。なぜかと考えてみると、中学校へ進学前の子どもは「家庭」を中心として活動しています。ところが、中学校、高校へと進学すると「家庭」ではなく、今度は「個人」になります。先ほどダンスの話やスポーツの話がありましたが、活発に活動しているところは、「個人」がレベルアップしたいということで参加されているのだと思います。例えば、登美丘高校のダンス部が一つの起爆剤となって、堺市全体でもブームになっていて、それは確かにいいことです。私の孫の話になりますが、孫も先般まではダンス部に入っていました。それで、「どうしてダンス部に入ったのか」と聞くと、「私が好きだから入る」と答えました。その部活が良いから、という理由ではなく、自分が好きだからやっていると。そうすると結局は、個人の問題になります。そういったことについて行政として、どうすればいわゆる小学校と同じような「家庭」を中心とした動きができるようにするのかといった施策は全くありません。教育委員会でもそういうことは考えていません。そういうところが置き去りにになっているので、皆さんがお話になったような状況になっているのではないかと私は思います。この答申の中には、そういった内容が一切入っていませんので、こういうこともこれからは考えていかなければいけないと</p>

<p>加我会長</p>	<p>思います。以上です。</p>
<p>奥田委員</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>中学生についてですが、私は子どもの居場所づくりに携わっており、居場所を開設した際は就学前の子どもから中学生までが参加してきます。その中で将棋を教えることができる大人がいて、将棋クラブに入っている中学生に教えています。回を重ねると少しずつ仲間が集まってきます。そして中学生に「小さい子にも教えてあげてね」と言うと、教えています。そういった風に地道に、何かのコンテンツでつながっていくとということをしないと中学生、高校生も来ないと思います。また、高校にもボランティアクラブというのがあって、そういったところとこれから協力していきたいと思っています。私たちは年配なので、子どもの相手をするにはちょっと体力がないので、子どもの居場所づくりにはキャンプカウンセラーといった大学生のリーダーを呼んだりして、子ども達の相手をしてもらっています。やはりその中で何をもってつながっていくかということの仕掛けが大事だと思っています。そして、「場」ということで地域会館は、地域会館と老人会館で構成されています。少年会館、青年会館ではないです。そういった部分で、もっと若者が集まれる、もっと若者も意識しているよ、という一つの施策か何かがあればいいのかなとは感じています。</p>
<p>加我会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。では岡井議員どうぞ。</p>
<p>岡井議員</p>	<p>今、奥田委員がおっしゃったことと重複するかもしれませんが、いずれにしてもやはり中学、高校と成長していくにつれて、天野副会長もおっしゃったように、人間的に成長をしていくとともに、いろんなことに取り組みたい、いろんな目標を持ちたい、いろんなことに興味を持つ、といったように親との関係以外に社会的な新たなつながりの中で自分の目標、目的を伸ばしていく中で子どもたちは成長していくことになるのだと思います。ですから、そういうことを考えると、一面やむを得ない部分はあるとは思いますが、それら全てが、その子どもたちの生活の全てなのかといったら、そうではないと思うので、やはりその合間においては、住んでいる地域で何か参加型の自分の希望や意見や要望が言えて、それが反映されて一緒に何か物をつくって取り組んでいく、といったことができれば、やりがいや楽しさなども一緒に作り出せていけるのではないかと思います。</p> <p>直接この答申の文案とは関係ないのですが、済みませんが事務局の皆さんに一つ聞いても良いでしょうか。アンケート調査について、いわゆる活動の場所ということで地域会館や公民館といった文言が出てきますが、北区以外の場合は、区民ホールがあるかと思います。他区でのアンケートでは、区民ホールの文言も入っているのでしょうか。北区だけ区民ホールを外しているのか、他の行政区ではどのようなアンケートになっているのか。もし区民ホールが他区のアンケートに入っているのであれば、区民ホールがどんな使われ方をしているのかということにちょっと興味</p>

<p>小松委員</p>	<p>がありますので、お聞きしました。</p> <p>区役所からお答えするのが本来でしょうけど、取らせていただきました。今回のアンケート調査は、北区のみで実施しているので、他区でのアンケートは行っていません。そして、区民ホールについて言わせていただきたいのですが、北区のボランティアフェスティバルのときに市長とのタウンミーティングがありました。新金岡市民センター3階の大集会室に多分100人以上が参加して、もう熱気がすごくて、市長に意見を聞いてほしいっていう感じがあり、たくさんの意見があって、すごい熱いタウンミーティングでした。そのときに、区民ホールが北区にだけ無いということで要望が出ました。そこで、市長はこの新金岡市民センターの老朽化が大変であるため、その対応が第一でそれからですと。新たな箱物はなかなか作れないと。フェニーチェ堺がオープンするから、素晴らしい施設ですので、しっかり活用してくださいね、とそういうことでした。でも堺区にある施設なので、北区の子どもは行けないじゃないか、と思いながら私は聞いていました。そして「北区民に優先的に使わせてもらえますか」って言ってしまったものですから、北区だけのエゴの発言と思われたようで残念でした。いずれにしても、あの市民センターの改修だけではやっぱり区民ホールにはならないという思いがあります。それはそれで是非ともみんなで要望したいと思っていますので、議員さんも是非よろしくお願いします。私たちもこういう声を下げないで頑張らないといけないと思っています。さくら今池公園ができて、私は徒歩1分で公園に行けるんです。そうすると、「毎日絶対10分はスロージョギングをしましょう」と決意すると、気軽にできる訳です。そして、ついでに公園を見てちょっと雑草を取ったり、ごみを拾ったりといったこともできます。でも、それが家から15分離れていたら、忙しい大人は行けないし、子どもだって危ないから1人で行ってはダメみたいに言われるような御時世になってしまっています。5分、10分くらいで行ける公園であれば、子どもがグループで行って5時くらいまでに帰ってくるというような使い方もできます。公園がある五箇荘と東浅香の地域の高齢者は毎日散歩する人が増えたので、健康度がアップしたのではないかと思います。集会所や子どもが歩いて行ける身近な距離に図書館や文化ホールがあれば、地域の人たちの文化度が上がり、まさに住民の自治力が上がり、住民が賢くなって、自分の生活も豊かにしながら、手をつないでいくような仲間づくりや多世代交流といったことが進むのではないかなと思います。そういう意味で、区民ホールはなかなかハードルが高そうですが、是非とも北区の文化度を上げていこうというふうに願いを込めて、発言させていただきました。</p>
<p>加我会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。池尻議員どうぞ。</p>
<p>池尻議員</p>	<p>先ほどの天野副会長の御意見ですけれども、私も本当に今の社会自体が個人主義になっていると考えております。本会議場でも述べましたけれども、今の教育を本当に変えていかないことにはもうどうにもならないと思います。やはりアメリカのGHQ政策で導入された、今の日本の教育によって「私」という字自体も、</p>

昔は「和」をもって「多」く「志」すという字であったのが、今は「私」になっています。本当にそういったところから変えていかなければ、今の社会全体が変わらないと思います。共産党の皆さんがいつも言われていますけれど、本当に私はもう堺からその教育を変えていくんだ、という思いでやっております。その中で、百舌鳥の地域でも各町内で昔はずっと盆踊りをやっていたのですが、それがもう今は中百舌鳥と百舌鳥本町だけでしかやっていません。それは何故かと言うと場所がないのです。盆踊りというのは、みんなが一つの輪になって踊りその周りで青年団が子ども達を相手に縁日をやる、というのが本当に地域のつながりだと思っております。場所がないことについて、学校を開放して運動場でさせてもらえないかという意見も教育委員会にも言いましたが、なかなかお堅いところですので許可は出してくれないですが、そういったことが必要ではないかと思えます。そして、子ども達も一つの家で遊んでいても、一人ひとりがバラバラにゲームをして遊んでいます。今、健康麻雀というのが流行っていますが、麻雀というのは4人で他愛もない話をしながら遊びます。賭け事はいけません、そういったものも大事なかなと思います。以上です。

加我会長

はい、ありがとうございます。そろそろ時間も迫っておりますが、議員の先生方から他に御意見ございますでしょうか。

石本議員

少子化と言われていますが、この北区では毎月、150人前後の子どもたちが誕生しています。先日、民間保育所の皆さんと北区選出の議員との懇談の場がありました。その時はテーマが3つございました。1つは待機児解消、もう1つは保育士の処遇改善、それともう一つは、災害時の対応でした。そういったテーマで随分いろいろな話になりましたが、最後のテーマである災害時の対応ということで、特に保育所の建物自体にもいろいろな問題がありますので、地域の人や子どもたちが安心して過ごせるような施設が必要であると。別に立派な大きなビルでなくても、今、空き家が増えているということが話題にもなっていますので、そういった所でも使えそうな場所があるという話その場でも出ました。私も大きな建物を構えるよりも、地域で小さな子どもでも、高齢者でも、先ほどの小松委員の徒歩1分ではないですが、5分以内で歩いて行けるような場所に、そういう気軽な集まりの場ができるような施策は大事なかなと思います。

場があれば人は集まってくるということでは、私の住むマンションは築40年経っており、随分古いですので先日の台風21号で非常に大きな被害がありました。ブロック塀は倒れ、ベランダのお隣との隔て板が全部飛んでしまいました。築40年ですから、ひとり暮らしの方も結構多い中で、非常に心細くて怖くてということで、台風24号のときには、親戚や娘さんに頼んで連れに来てもらったというお話や、集会室を開けてもらって、そこでみんなで過ごそうかというお話もありました。そういうことも含めた、小さい子どもから高齢者までが、集えるような、気軽な施設があちこちがあればいいかなと思いますので、そういうふうな方向に歩みを進めていきたいなという気持ちになりました。以上です。

<p>奥田委員</p>	<p>昨年、堺市はコミュニティ・スクールという制度をつくって、地域コーディネーターを選任すること、地域担当の教員を設置することが決められています。こういった既存の組織があるにも関わらず、それをもう少し活発化する意見がでないことを疑問に思っています。私自身もいろんな小学校に理科の支援で行っていますが、地域コーディネーターは、普段から活発に活動している方が自治連合会の会長が担っている学校が多いことが分かります。学校評議会というのがありますが、新しくスタイルを変えていく必要があるという意向になっています。そのことをもっと突き詰めれば、結局は「学校を開放しなさい」、「地域ともっと連携して協力的な関係を持ちなさい」ということになってくるので、既存のものを活用するだけで、もっと良くなるのではないかと思います。他にも、実際に学校現場へ入っていると、学校の先生の忙しさというのは感じます。では具体的にどうすればいいのかということですが、五箇荘東校区で考えると、学習園が広くたくさん植物があります。しかし、先生方は他にも多くの業務を抱えているため、学習園に対する優先度は低くなってしまいます。そうすると、学習園の子どもの植物の生育を見るということについては少し疎かになります。学校現場に入ることや、学校からニーズを探るとどういうところに手を入れれば学校の先生が楽になるかが分かってきます。ですので、学校からニーズを探って先生方の負担を減らしていく必要があると思っています。</p>
<p>加我会長</p>	<p>ありがとうございます。時間が来ましたので、北区選出の市議会議員の先生方との意見交換はこれで終了させていただきます。議員の皆さまからいただいた意見、そして委員の皆さまからもいただいた意見も踏まえて、最終の答申に向けて審議・検討を進めてまいりたいと思います。本日はどうもありがとうございました。それでは前半を終了します。</p>
<p>3 多世代交流・協生のまちづくりについて</p>	
<p>加我会長</p>	<p>それでは、諮問事項の審議に入りたいと思います。本日は、答申書（案）について御意見いただき、取りまとめていきたいと思っています。それでは、お気づきの点等ございましたら、御意見いただきたいと思っています。</p>
<p>小松委員</p>	<p>6ページの「2 主な課題」のうち「(1) 委員からの意見」の一番下に記載されている「各種団体等の取組情報が十分に伝わっていないため、活動に対する関心が薄く、取組自体が地域住民に認知されにくい現状がある。」という文書についてですが、ここまで書くと、北区民は地域での活動に関心がないという印象になってしまうので、「活動に対する関心が薄く」という部分は削除したほうが良いと思います。「各種団体等の取組情報の発信がまだ不十分であり、取組自体が地域住民に認知されにくい現状がある。」という表現でも十分伝わると思います。関心は持っているけど、忙しくていけないとか、様々な事情があると思います。ですので、関</p>

<p>加我会長</p>	<p>心が薄いという決めつけになる表現は避けたいと思います。</p>
<p>天野副会長</p>	<p>ありがとうございます。みんなが活動に対する関心が薄いというのは少し書き過ぎかと思います。ほか、御意見ございませんか。</p> <p>答申書と直接関係ありませんが、地域会館を核にして、多世代交流をしましよと働きかけています。ところが、行政から地域会館に対してから一切お金が出てないため、自前で運営している状況です。任意団体が開催する教室などに地域会館を貸して、それで得た使用料により運営しているというのが実態ですが、様々な問題点が出ています。例えば、夜の10時まで貸してほしいと言う団体が出てきた場合です。この場合、夜10時に地域会館の施設に行く必要がありますが、毎回校区の役員が担うようにするとみんな嫌がります。ましてや、この冬の寒いときに夜に出て行って、地域会館を閉めて帰ってくるというのは非常に苦痛だと思います。そうになると仕方がないので、金岡南校区の地域会館では管理人を雇っています。すると当然ながら賃金が発生しますが、支払うお金もないため先ほど申し上げたように地域会館をお貸ししたお金の中から流用しています。たくさん貸せば貸すほどお金が入りますが、その分、管理人に支払う金額も増えるという、いたちごっこになっているという問題があります。</p> <p>問題はもう1点あります。先日の出来ことですが、金岡南校区の住民が地域会館を借りに来たとき、管理人は会館の予約状況を見て「希望の日には予約が入っている」という話をしました。予約可能な日にちを聞かれたため、向う1カ月間は難しいと返答しましたが、その方は「この会館は誰のためにあるのか。地域のためにあるのではないのか。」とおっしゃられて、管理人は上手く答えることができませんでした。その後、私に報告が来まして、その方と会って実態を伝えたところ、ご理解いただくことが出来ました。こういうことは、行政から補助が幾らかあれば、少しでも緩和できるのではないかと思います。ただし、老人会館だけは年間6万4千円の補助がありますが、何で老人会館だけなのか、認識不足のため石井センター長、また教えてください。いずれにしても、先ほどからいろんな議論がある中で、やはり地域会館をベースにしながら多世代交流を図っているわけです。それが、根本的に難しい現状にあるということをぜひとも認識をしてもらいたいと思います。</p>
<p>加我会長</p>	<p>ありがとうございます。皆が集まれる場所というのは絶対に必要だということだと思います。それをどのように維持、運営していくのかについては、地域と行政の両方からの支援が大切ということかと思いますが。ほかに御質問等はございますでしょうか。</p>
<p>大江委員</p>	<p>答申書に記載はありませんが、先に行った市民活動団体による多世代交流に関する活動状況及び意向調査の結果のコメントに、「北区には活用可能な地域の資源が多くある」とあります。地域資源の中には、お寺などの歴史的な資源も含まれていますが、気楽に集まれる場所が本当に多いのかと言うと、必ずしもそうではありま</p>

	<p>せん。利用方法がわからない、手順がわからない、天野副会長がおっしゃられたように利用者が多くて利用できないというのが実情です。先ほど小松委員からも北区は地域資源が非常に多いとお話がありました。確かに北区には産業振興センターがあるので恵まれていると言われますが、区レベルの大きい活動の時は使用させてもらいますが、利用にあたっては非常に高い料金がかかるため、なかなか使用することができません。北区には新金岡市民センターもありますが、本当に活動するにあたっては活用可能な地域資源が多いと言えない部分もあります。</p> <p>私の住む団地は400所帯ほどありますが、地域の会館や集会所がなかったらと考えると、活動は難しいと思います。地域に会館があるからいろんな活動が可能になって、住民同士がつながっているのだと思います。そういう意味では、いつでも使える場所があることが多世代交流を考える場合には非常に大事なことだと思います。</p> <p>また、先ほど言いました答申書の3ページに記載がある「取組の現状」についてですが、記載が足りていなかった町会、自治会レベルの取組についても追記していただけないということではよろしかったでしょうか。自治会レベルでの取組は先ほど岡井議員がおっしゃっていたように、ふれあい祭りなどが当てはまると思います。運動会や夏祭りなども当てはまりますが、町会、自治会レベルでの取組というのは非常に大事だと思います。屋外でこのような活動ができればいいですが、屋内でいつでも行けるような場所で開催することになると、やはり地域会館、集会所が必要だと思います。</p>
加我会長	ありがとうございます。
奥田委員	<p>取組を進めていくにあたって、答申にある意見の深掘りをしていかないといけないと思います。例えば、団体間の交流について、私は青少年指導員会をしている際、こども会の北区の役員と懇談会を行いました。ただ何となく集まるだけでは世間話だけで終わってしまって、こども会側からも課題やテーマの設定が必要だと言われました。ですので、それぞれの団体でどんな課題があるのかをピックアップしておくのも重要なことだと思います。</p>
加我会長	何を話題にして集まるのかということですね。他にありませんか。
椿委員	<p>先ほどからもっと集える場所をとという話がありますが、場所を借りることは難しく、お金もかかります。地域会館にしても時間制限付で貸出になっています。産業振興センターを使用するにもお金が必要になります。ですので、集える場所といっても、何を指しているのかよく分からず聞いています。</p>
加我会長	<p>身近な場所というと、屋内型としては地域会館、老人会館や集会所がありますし、屋外では各種の公園があります。</p>

奥田委員	<p>地域会館を使用するということでは、私は青少年指導員であり、自治連合会のメンバーでもあるので、地域会館の中身が分かっているため、活動する際は空いている日をうまく利用できる立場にいます。逆に自治連合会に入っていない人は難しいと思います。また、先ほども言いましたが、学校の地域コーディネーターということでは、学校開放をもっと積極的に活用すべきだと思います。地域コーディネーターは研修を受けますが、そこで聞いた話によると、横浜市などは結構活発な動きをしていて、地域に協力するための場所があるらしいです。そこで学校がお茶、湯茶のサービスを提供しているそうです。そして地域の人は花を植えたり掃除をしたり、学校の美化整備をしています。このように学校開放を利用した取組を考えてみるというのは一つの手立てだと思います。活動場所として一番使いやすいのは小学校だと思います。いかに学校とうまくコミュニケーションをとって学校開放に協力してもらえるように持っていけるかがこれからの活動の課題だと思います。</p>
加我会長	<p>ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。</p>
竹川委員	<p>長らく会議に参加できなくて申し訳ございません。感想になるのですが、私もずっといろんな地域の活動に関わってきて、役員をする人と参加する人との温度差を感じます。結局、役員をする人たちは仕組みも知っているし、地域会館の利用方法や組織のこともよく分かっています。参加する方っていうのはその辺りのことを知らないまま、興味があれば行事に参加してくれます。ただ逆に言うと、行事に参加することで役員を依頼されるのではないかという不安から、なかなか行事に参加されない方もいらっしゃいます。どうしても、役員をしている立場からすれば、良い人だと思えばお声もかけるし、今後協力してくれませんかと思ってしまう。</p> <p>一番不安に思っているのは、高齢の方で長く役員をやってきた方々がここ何年間でお亡くなりになってきていることです。役員をやられている方は80歳代が圧倒的に多くて、老人会でいう若手の60歳代の方が非常に減ってきているということが五箇荘校区の老人会の悩みです。老人会が80歳代の方を中心に活動しているのと同じように、地域の役員をやっている方も一番の動ける40歳代、50歳代あたりの人が少ないです。こういった人の問題が一番気になっています。人が動かすのではなく仕組みが完成していて、誰でも動かせるように組織の運営も含めてノウハウをマニュアル化していくことも必要だと思います。</p> <p>複雑なこともするよりはシンプルで、誰がやっても運営できるような形でベースをつくって、そこに人が興味を持てばいろんな活動を上積みしていけるような手法が良いと思います。「前任の方と同じことはできません。」とおっしゃられて、手の込んだことをやり過ぎると次の方が選べないという悪循環の話をよく聞きます。頑張っている方は評価されますが、頑張っている方がずっと役員を続けてくれるだろうっていう期待とともに、次の方が全て拒否されてしまうという悪循環に陥っているところもあるというのが今まで私が見てきたところで、今後不安に思っていることです。</p>

加我会長	<p>はい、ありがとうございます。働かされている方の年金支給が65歳から今度70歳になるという話もあります。ここ10年で急激に社会の仕組みが変わってきたというのがありますが、それに伴って地域活動に参加される方の年齢も変わっているのかもしれない。</p>
奥田委員	<p>働くということでは、対価を求めるという働き方は、普通の働き方です。地域における働き方には無料奉仕や有償ボランティアなどいろいろな働き方があると思います。よく言われるのがシルバー人材センターを活用できないかという意見があるかと思います。例えば、学校の中にサポーターのような組織をつくって先生の補助を行うというような従来の働き方から少しグレードダウンした働き方があり、地域に参加してもらおうというような仕組みができればいいなと思っています。</p>
加我会長	<p>私が思っているのは、今の50歳代が地域に参加することが一番少なくなるのではないかと思っています。私達はバブル期の世代なので、いい車に乗って、いい服を着る、というように、消費することが楽しみでした。そして、今の40歳代や30歳代は、就職活動をしているときに苦しかった時代で、ボランティアなどに非常に興味を持っている。もしかしたら、今後10年は非常に心配ですが、その次の世代は違うのかなと思うときがあります。</p>
野田委員	<p>ボランティアに関してですが、以前に子どもを連れてお母さん向けの講演会に行くと、子どもの面倒を見ないといけないので話を聞けない、そんなとき高齢の方やボランティアの方などが子どもを見てくれたら良いのに、という話をしましたが最近、私の友達でそういう活動を始めている人がいます。その人は大学生で保育士を目指している人などに声をかけて、実習も兼ねてボランティアで託児に来てもらう。そういう仕組みをつくっていきたいということで、将来的にはその仕組みを単位の取得や授業一コマに出席したような扱いをすることで活性化していけば、親にとっては託児のお金もかからず、学生にとっても学びになるからいいのではないかと話をされています。そういった何か既にあるものを活用するという動きがまだまだ足りてないのかなと思います。</p> <p>また、ニュースで見たのですが、中学生に授業の一環としてヘルパーの勉強をさせて、その勉強をした子どもたち二人一組で在宅介護のお家に、プロのヘルパーをされている方と一緒に伺って実際に体験するっていうことをされているようなところもあるみたいです。ですので、中高生は地域との関わりが薄くなるという話もあったと思いますが、学校の授業などを活用して、地域とつながっていくという働きかけをもっとしていく必要もあるのではないかと私は感じています。</p>
加我会長	<p>はい、ありがとうございます。</p>
奥田委員	<p>大学生ということ言うと、青少年指導員会では、そういう既存の団体やボラン</p>

<p>伊藤委員</p>	<p>ティア団体と大学生とのマッチングができないかということについて話をしています。</p> <p>奥田委員が言われた、小学校や中学校などの学校を開放し利用する、既存の施設を利用するという意味では、子ども食堂のような地域の食堂、地域楽食みたいな場所があったらいいなと思います。学校施設を利用することができれば、子ども食堂とリンクさせて子どもだけでなく、地域のお年寄りも来られる場所になります。その場を利用する時は無料ではなくて、安価にご飯を提供できたらいいと思います。「食べる」ということは子どもであっても大人であってもおじいちゃんおばあちゃんであっても共通することなので、すごくコミュニケーションをとることができるのではないかなと考えています。でもそれを実現する手段やノウハウが自分には何もありませんが、そういうことが学校という場を活用してできれば多世代交流の場になるのではないかと思います。</p> <p>昨日ニュースで見ましたが、小学校で朝御飯を提供するような取組が広島で始まったそうです。食品メーカーなどから、コーンフレークやパン、飲み物を週に1回ほどのペースで提供してもらおうそうです。どうしてそういう取組が始まったかというと、家で朝御飯を食べて来ない子どもが非常に多いからでした。いろいろな家庭の事情があって、食べる、食べないということになると思いますが、朝御飯を食べてくる子と食べてこない子の学力の差が顕著にあるらしいです。学力の向上を目指すために学校で朝御飯を提供してはどうかということで公立の小学校で取り組みが始まったそうです。先ほど石本議員がおっしゃっておられましたが、子どもが家事をしていて大変な状況にあるということや、朝御飯も食べていないという家庭もいろいろあると思います。そういう状況は外からは把握が難しいので、学校を活用した場をつくることで、いろんな立場や環境の子どもが来て御飯を食べるっていうようなことができたらいいなというのをずっと理想だと私は考えています。学校を活用して何かそういう取組を考えていただけたらなと思います。</p>
<p>加我会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>議員の先生方との意見交換会の時に石本議員のお話の中にもありました、学校の空き教室の開放についてです。堺市以外の自治体では空き教室を利用して、待機児を受け入れる取組をされているところもあります。ただ、堺市に関してはそれがちょっと遅れている。初めてのことはなかなか取組みにくいというようなお話も議員さんの中から出ていましたが、そういった事例があるということも理解していただければと思います。小中学校に乳幼児の受け入れを行うことで、児童や生徒の精神的な成長、小さい子を見て自分たちが何かをしてあげる、手を差し伸べてあげることによって、自己肯定感も育つというような見解から、進めていきたいということも言われています。</p> <p>私が参加する園長会関係でも新しい箱物をつくるのではなく、空き教室を利用する方法を模索している段階です。新しい箱物をつくるには莫大な資金がかかります</p>

	<p>し、少子化の現代では将来的な経営が成り立っていかないということも考えられます。小学校や中学校には、乳幼児や高齢の方たちも足を運びやすいのかなと思いますし、そういう人たちが自由に使える教室があることで、孤立化している若いお母さんたちがそこに足を運んで育児の面での先輩からの知恵をいただくというようなことも、一種の世代間交流なのかなと考えております。</p>
加我会長	<p>はい、ありがとうございます。今までは「地域」や「家族」、ということが当たり前でした。今や「地域」、「家族」、「個人」など、その家族の形態も変化していて、そのときの体調で朝御飯を食べない家庭や、朝御飯を食べる時間がない、忙し過ぎて子どもが家事を手伝っているというのものもあるでしょうし、朝御飯がないというのものもあるでしょうし、それぞれの家庭で困っていることというのは、実は埋もれてしまっていて、そういう人たちが出て来ることができる場があるということが重要なのかなと思います。</p>
	<p>ちなみに北区内の小学校では、空き教室が発生していないのでしょうか。</p>
吉田区長	<p>地域によります。</p>
加我会長	<p>私の子どもの頃が子どもの数がピークの時だったと思いますが、そういったときの施設というのは空きが出てきます。街中にも空き家や、空き施設もありますし、私の分野でいきますと使われていない公園というのはたくさんあります。小松委員のお話では、公園が近くにできて多くの人が使っているとのことでしたが、一方では使われていない公園がたくさんあるのも事実です。こういった使われていない場所や、空いてくる場所をうまく使いこなすということができれば良いと思います。</p> <p>では、答申書については、今日、前半でいただいた意見と、後半でいただいた意見について、具体的な内容については、区のほうでもう一度整理、検討していただいて、次回会議にて提案していただき、最終案を取りまとめたいと思います。そろそろ時間が来ましたが、ほかに皆さんのほうから何かございますでしょうか。</p>
小松委員	<p>文案は考えて提案したいと思いますが、先ほど発言した内容は反映していただけるのでしょうか。親世代の長時間労働や不安定雇用などの背景もあり、社会的な関心に目を向けて活動するっていうのは広がっていない、といった内容も必要ではないかと思いますが、そういった提案をしても良いのでしょうか。</p>
加我会長	<p>提案していただいて、全員で内容の確認をしましょう。</p>
小松委員	<p>はい、よろしくお願ひします。椿委員が言われました、無料で利用可能かどうかといったことも含めて少し議論できればいいなと思いました。</p>
加我会長	<p>はい、ありがとうございます。</p>

大江委員	空き教室の問題ですが、金岡とか金岡南は校舎を増築しましたよね。
加我会長	そうです。地域によって状況は違うのだと思います。
大江委員	そういう点では金岡東や大泉は随分と教室が空いています。空き教室の利用に関する話は市町村によっては盛んに出てきますが、堺ではあまり出てこないのはなぜかなと私はいつも不思議に思っていました。また、学校開放ですが、青少年指導員会やこども会での利用は多いと思いますが、一般の人たちの利用は少ないように思います。
奥田委員	学校開放を利用するには校区内の子どもが半数以上で10人以上いなければいけないという規定がありますので、利用には申請を出して登録しないといけないんです。私は、青少年指導員会として登録しておいて、地域で必要であれば青少年指導員が応援するという形で協力しています。
大江委員	わかりました。もっと地域に開放しても良いと思います。以前、単位自治会で校庭を利用させていただいたものですが、責任ある方法でもっと活用しても良いと思います。
竹川委員	施設開放委員会が管理しているのはグラウンドと体育館と一部の教室のみで、土日限定です。学区によって利用可能な部屋は違いますが、例えば、空き教室を施設開放委員会が管理するという事はないです。教室に関してはごく一部の部屋だけであって、各土日の日中に限定されています。夜間に関してはあくまでも学校として管理となり担当が違います。
大江委員	こども会などは学校を利用してかなり交流していると思います。
奥田委員	夜間については、学校が管理しています。トラブルがあると校長先生の責任になりますので、学校と協力関係を築いておかないと利用するにあたっては少し問題があると思います。
加我会長	はい、ありがとうございます。ではこれを持ちまして、第5回区民評議会を終了いたします。ありがとうございました。